



2021 日本のうたごえ祭典 in ひろしま

企画ニュース⑦

発行 2021.9.27

祭典企画委員会

12/4 (土) コンサートヒロシマ・I 夢よひろがれ オープニング

和太鼓合同「生命の詩」吹奏楽団&合唱付き

～今福優 コーディネート～

“辛いことがあっても 前を向いて 今を一生懸命に輝いて生きよう”

「生命の詩」の演奏に寄せて

太鼓センターひろしま 大野 正信

9月23日、「生命の詩」の初めての合唱練習に参加しました。

この企画(合唱・吹奏楽・太鼓)を立ち上げて早2年が経とうとしています。

このコロナ禍で先が見えず、気持ちは正直悶々としていましたが、今日の練習でやっとスタートラインに立つことが出来、少し晴れやかな気持ちです。

今回の「生命の詩」のステージは、コロナの関係で当初の構想よりは大幅に規模を縮小して、今福優さんと共にキーボードと吹奏楽の伴奏での100人の合唱、続けて地元広島の子ども太鼓・もみじ作業所の仲間たち約60人で和太鼓を演奏します。



(2005年9月 広島のうたごえ祭典)



(2005年11月 日本のうたごえ祭典 広島)

次回「生命の詩」練習会 10月31日(日) 10:00～ 中央公民館4階ホール

今福 優さん 来広！ 本番指揮者小川秀樹先生のご指導です！



(2016年5月フラワーフェスティバル)

「生命の詩」の太鼓は、そもそも2004年今福優熊本リサイタル10周年記念公演にて総勢100名で初演。

広島では、2002年のもみじ作業所の夢太鼓コンサートで今福優さんと出会い、その流れで2005年被爆60年日本のうたごえ祭典 in ひろしまで全国・地元158名の仲間たちで高らかに打ち鳴らしました。

それからは広島の数々の太鼓団体でも、〇周年コンサートで数多く取り組まれました。

2012年には全障研46th広島大会で140名で演奏。

被爆70周年の2015年には、広島交響楽団と障害者のジョイントコンサートマーガレットコンサートで、歌の部分を広響とジョイントしました。

「生命の詩」の合唱付きでの公演は数少なく、今回の様な大合唱付きの演奏は初めてとなり楽しみでなりません。

今福優さんと出会って30数年が経ちます。ずっと、その姿を見てきました。これまでの今福優さんの太鼓演奏で、この「生命の詩」の演奏で、どれだけ多くの人たちが励まされ生きる勇気をもった事でしょう。

今福優さんの視線の先には、いつも(社会的弱者といわれる)子どもたちや障害をもつ仲間たちがいます。

“辛いことがあっても、前を向いて、今を一生懸命に輝いて生きよう”のメッセージが、この祭典を通じて高らかに世界に発信される事でしょう。



(2015年 広島交響楽団マーガレットステージ)